

Q：説明文の指導項目と指導の流れについて、どのように考えたらよいでしょうか。楽しくわかりやすく授業を進める方法を知りたいです。

A：子どもたちが自ら説明的文章を読むのは、何か知りたい情報があったり、書かれている内容に興味を持ったりした時です。内容に対する知的好奇心や興味関心が喚起されると、それはとても主体的な読みとなり、子ども達を読む目的が達成されていくこととなります。しかし、書かれている内容を読み取ることだけに止めてしまうと、説明的文章を読む力の育成が十分に図られているとは言えません。学習指導要領で示された指導事項を確実に指導できる単元作りを通して指導にあたります。

アドバイス：

①説明的文章で身に付けたい力を明確にしましょう

学習指導要領「C 読むこと」領域、「説明的な文章の解釈」の指導事項をまとめて考えると、説明的文章で身に付けたい力は「文章や資料から情報を探す力」「書かれている内容を正しく読み取る力」そして「論の展開方法をとらえ自分なりの考えを表現する力」であると言えるでしょう。

②発達段階に応じたねらいを設定しましょう

上記の身に付けたい力もふまえると、説明的文章の読みは、大きく次の三つの段階でとらえることができます。

- | |
|--|
| I…書かれている事柄や構成を正しく読み取ること。
II…筆者の述べ方もふまえ、筆者の考えを読むこと。
III…筆者の主張や述べ方などに対して、自分なりの考えをもち表現すること。 |
|--|

低学年ではIを中心にねらいを設定した読みが展開され、中学年、高学年と学年が上がるに従って、II・IIIを重点としたねらいを設定することが望ましいでしょう。教科書に掲載されている説明的文章であれば、内容や構成、筆者の述べ方など、それぞれの発達段階が考慮されています。それぞれの学習材の特徴を見極め、初めは書かれている「内容」に対する興味が、読み進める中で筆者の述べ方や考えに興味に向くような単元構想をしていくことが大切です。

③発達段階に応じた説明的文章の具体的な読みの方法をふまえましょう

- | | |
|------------|---|
| 低学年 | ・「問い（問いの文）」に対する「答え」を見付ける。
・順序を表す言葉、数を表す言葉に着目して読む。
・形式段落を理解する。 |
| 中学年 | ・要点をまとめたり、意味段落に分けて小見出しをつけたりする。
・段落相互の関係を文章構成図に表す。
・事実と意見を読み分ける。 |
| 高学年 | ・要旨をまとめたり、要約したりする。
・筆者の主張を読み取る。
・筆者の主張に対する自分の意見を表現する。 |